

II 工業用水道事業

令和5年度決算 財政補足説明

目次

1	事業実績	13
2	収支の状況	14
3	財政の状況 (バランスシートの状況、キャッシュフローの状況)	15
4	供給単価・給水原価 (供給単価・給水原価(渋川)、供給単価・給水原価(東毛))	17
5	経営指標分析 (料金回収率、経常収支比率、企業債等残高対経常収益比率、 有形固定資産減価償却率、管路老朽化、施設利用率)	19

工業用水道事業

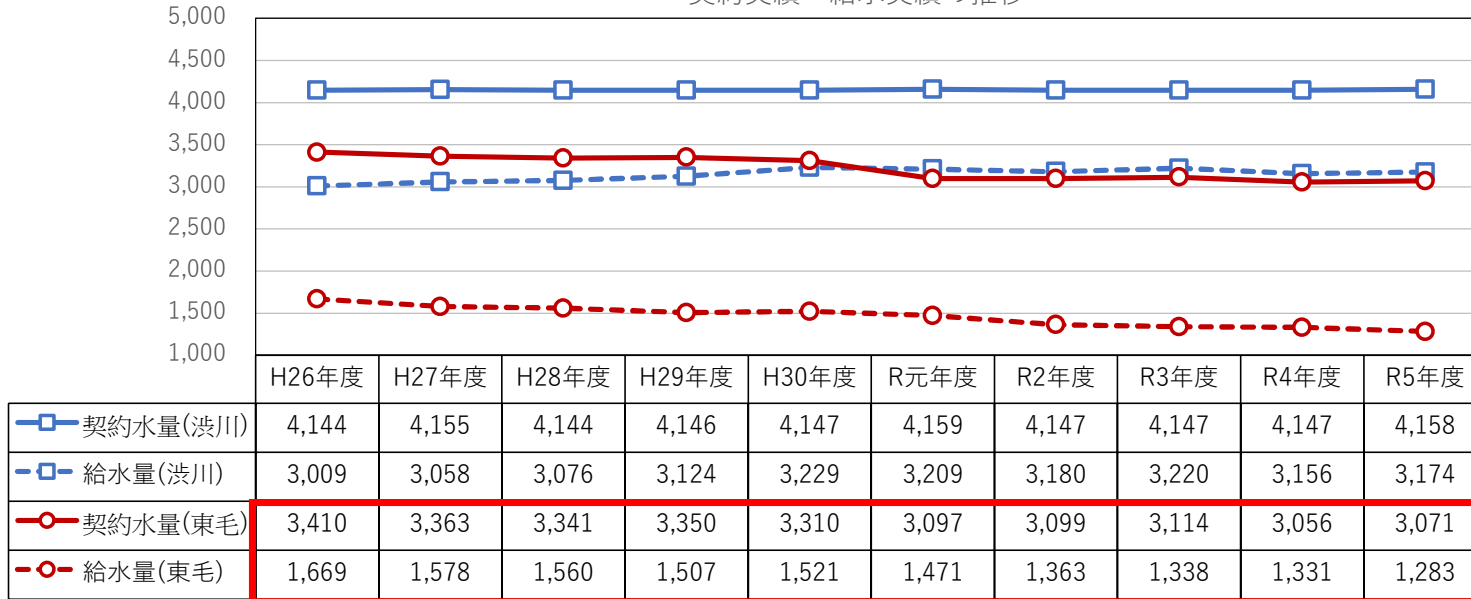
1 事業実績（契約水量・給水量）

ポイント

- ・ 渋川工水の、契約水量（1時間当たりの最大給水量）と給水量との差は、狭まってきている。
 - ・ 渋川工水の、契約水量は安定して高い基準を保っている。
 - ・ 東毛工水の、給水量は減少傾向にある。
- 契約水量と給水量の差が大きいのは、工水の有効活用等により節水が進んだことや、夜間に使用しない製造業が多いことによるものである。

(万m³/年)

契約実績・給水実績の推移



工業用水道事業

2 収支の状況

ポイント

- ・動力費は増加したものの委託費・修繕費の減少に伴う維持管理費が減少し、R3年度並みとなった。

〈損益計算書〉

(単位：百万円)

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	対前年度増減	増減率
営業収益	1,591	1,584	1,594	1,610	1,609	△ 1	△ 0.0 %
給水収益	1,591	1,584	1,594	1,610	1,609	△ 1	△ 0.0 %
営業費用	1,403	1,525	1,501	1,614	1,558	△ 56	△ 3.5 %
維持管理費	617	649	657	771	724	△ 47	△ 6.0 %
修繕費	126	187	125	143	132	△ 10	△ 7.2 %
減価償却費	660	689	720	700	701	1	0.1 %
営業損益	188	59	93	△ 4	51	55	93.4 %
営業外収益	295	300	294	301	337	36	11.8 %
長期前受金戻入	168	173	168	169	165	△ 3	△ 2.0 %
雑収益	127	127	127	132	130	△ 2	△ 1.7 %
営業外費用	169	130	122	127	101	△ 26	△ 20.4 %
支払利息	96	83	82	69	60	△ 10	△ 14.2 %
雑支出	73	47	40	58	42	△ 16	△ 27.8 %
経常損益	314	229	266	170	287	117	68.6 %
純損益	593	235	371	170	342	172	101.3 %
総収益	2,206	1,890	2,001	1,911	2,001	91	4.7 %
総費用	1,613	1,655	1,631	1,741	1,659	△ 82	△ 4.7 %

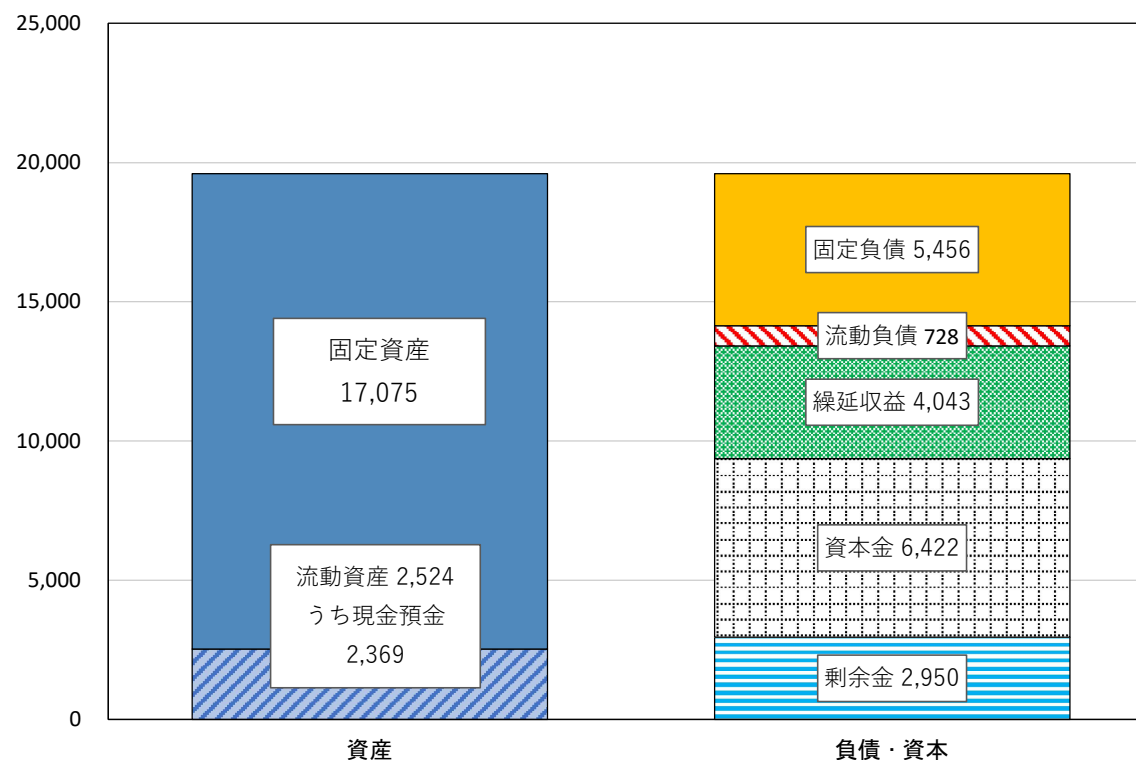
工業用水道事業

3 バランスシートの状況

ポイント

- ・ 管路などの固定資産と、現金預金などの流動資産を合わせた資産は、19,599百万円。
- ・ 企業債などの負債は6,184百万円だが、自己資本構成比率（総資本に占める自己資本の割合）は68.4%であり、経営の安定性は高い。

自己資本構成比率(%) =
(繰延収益 + 資本金 + 剰余金) ÷ 総資本 (百万円)



3 キャッシュフローの状況

ポイント

- ・ 現金預金の動きを示すキャッシュフローは、業務活動による資金獲得が建設改良及び企業債償還等に伴う資金流出を上回り、現金預金は157百万円増加した。
- ・ 今後、老朽化管路対策として、建設改良費の増加が見込まれることから、計画的な資金の確保に留意する必要がある。

キャッシュフローの状況

(単位：百万円)

	R4年度	R5年度	前年差
業務CF	649	818	169
うち当年度純利益	170	342	172
うち減価償却費	700	701	1
うち未収金の増減額（△は増加）	△ 4	7	11
うち未払金の増減額（△は減少）	△ 75	△ 63	12
投資CF	△ 261	△ 147	114
うち有形固定資産取得	△ 261	△ 154	107
うち国庫補助金による収入	0	△ 1	△ 1
うち工事費負担金による収入	0	3	3
財務CF	△ 305	△ 514	△ 209
うち他会計からの長期借入金収入	285	159	△ 126
うち企業債償還	△ 564	△ 507	57
うち他会計からの長期借入金の償還	△ 26	△ 167	△ 141
資金増減額	83	157	74
資金期首残高	2,129	2,212	83
資金期末残高	2,212	2,369	157



業務活動
に伴う資金獲得



建設改良等
に伴う資金流出



企業債償還
に伴う資金流出

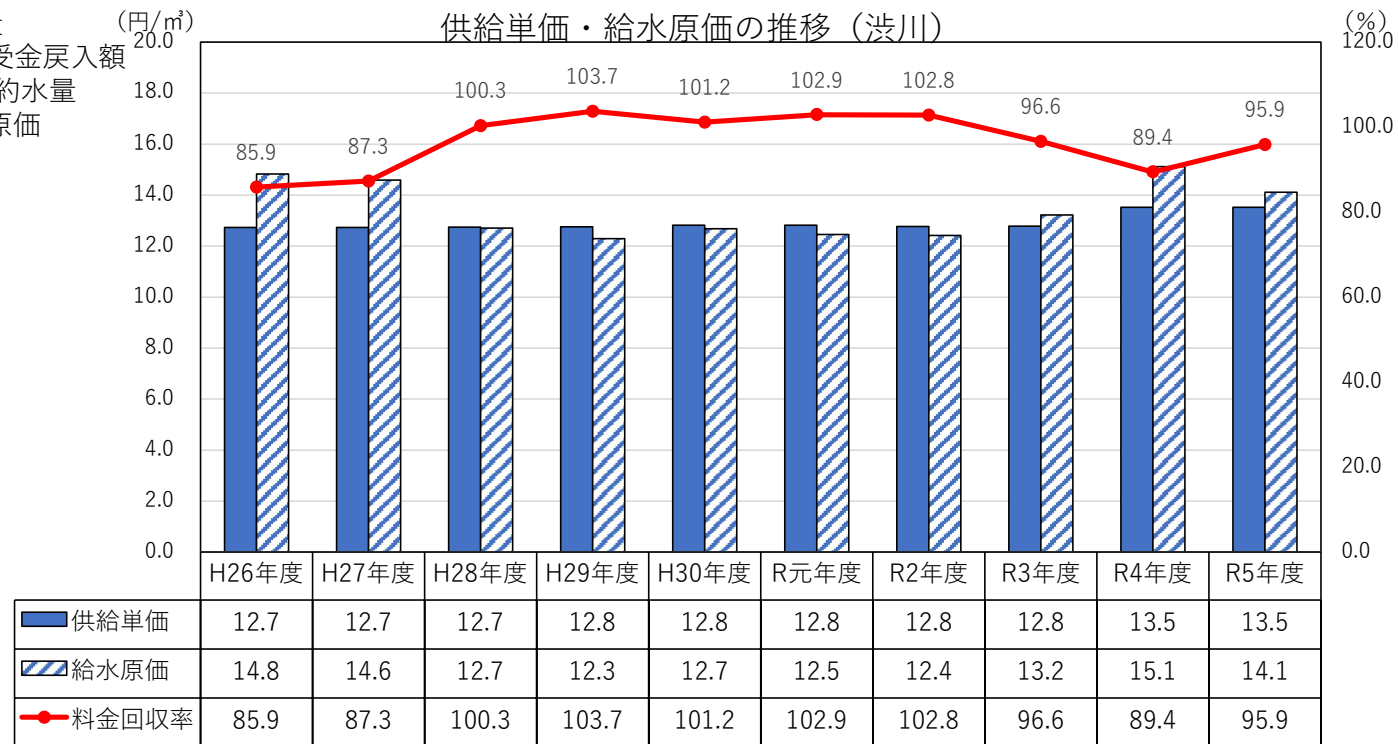
工業用水道事業

4 供給単価・給水原価（渋川）

ポイント

- ・ 供給単価を給水原価が超えており、1 m³あたり0.6円の損失を計上している。
- ・ 給水原価は、委託費・修繕費の減少により営業費用が減少し、前年度から1.0円減少した。

供給単価(円) = 給水収益 ÷ 契約水量
 給水原価(円) = (営業費用 - 長期前受金戻入額
 + 営業外費用) ÷ 契約水量
 料金回収率(%) = 供給単価 ÷ 給水原価



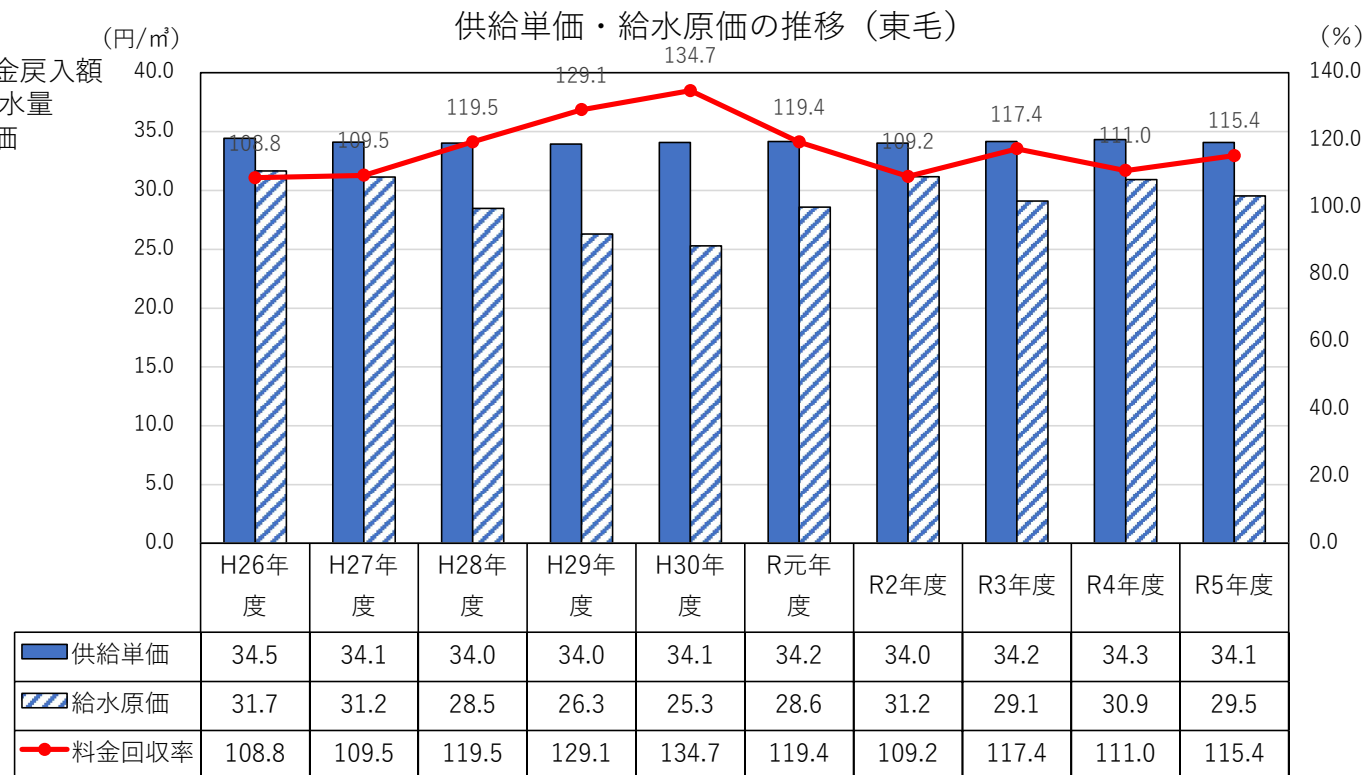
工業用水道事業

4 供給単価・給水原価（東毛）

ポイント

- ・ 供給単価を給水原価が下回っており、1 m³あたり4.6円の利益を生み出している。
- ・ 給水原価は、委託費・修繕費の減少により営業費用が減少し、前年度から1.4円減少した。
- ・ 料金回収率は毎年100%を上回っており、順調に推移している。

供給単価(円) = 給水収益 ÷ 契約水量 (円/m³)
 給水原価(円) = (営業費用 - 長期前受金戻入額 + 営業外費用) ÷ 契約水量
 料金回収率(%) = 供給単価 ÷ 給水原価

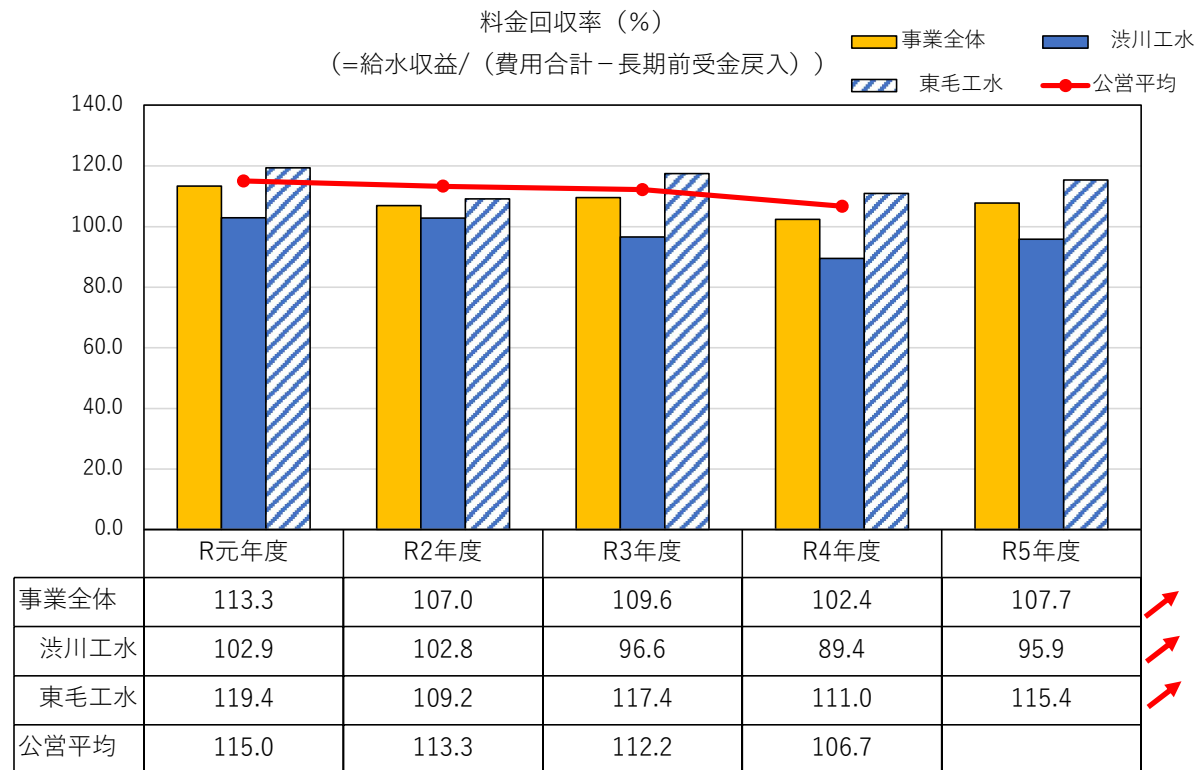


工業用水道事業

5 料金回収率

ポイント

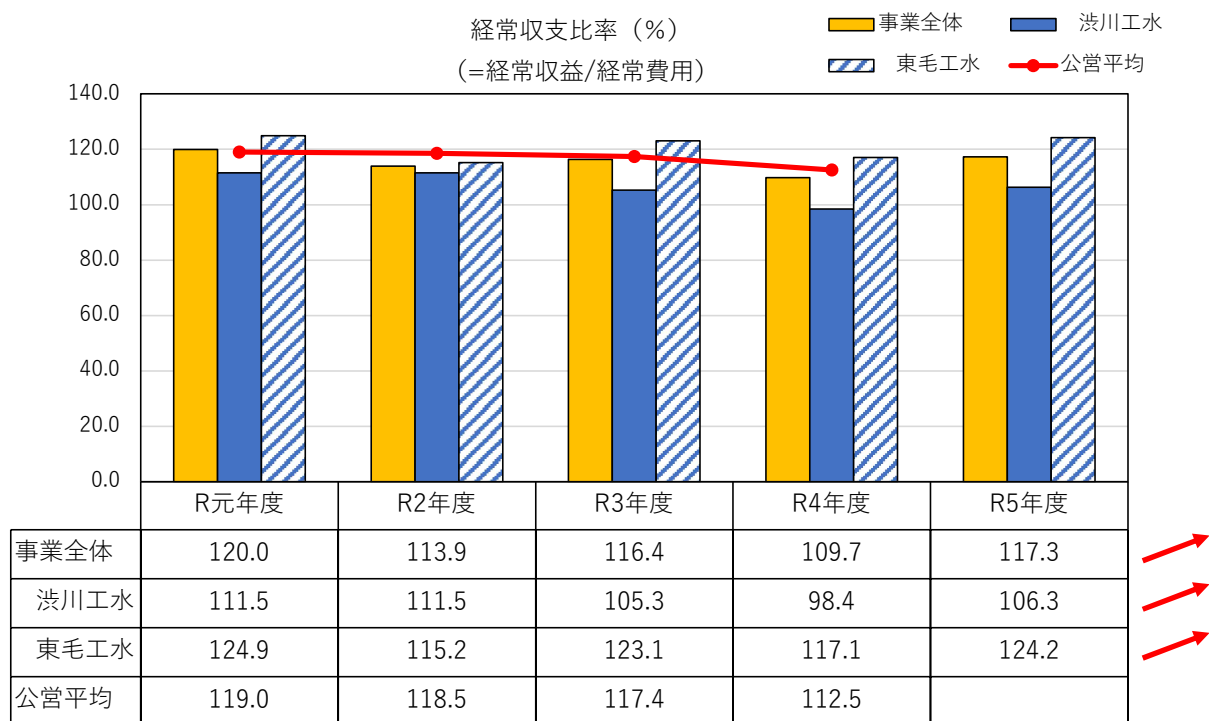
- ・ 渋川工水は、令和3年度から100%を下回っており改善が求められる。
- ・ 東毛工水は、低下傾向にあるものの概ね公営平均と横ばいであり良好である。



5 経常収支比率

ポイント

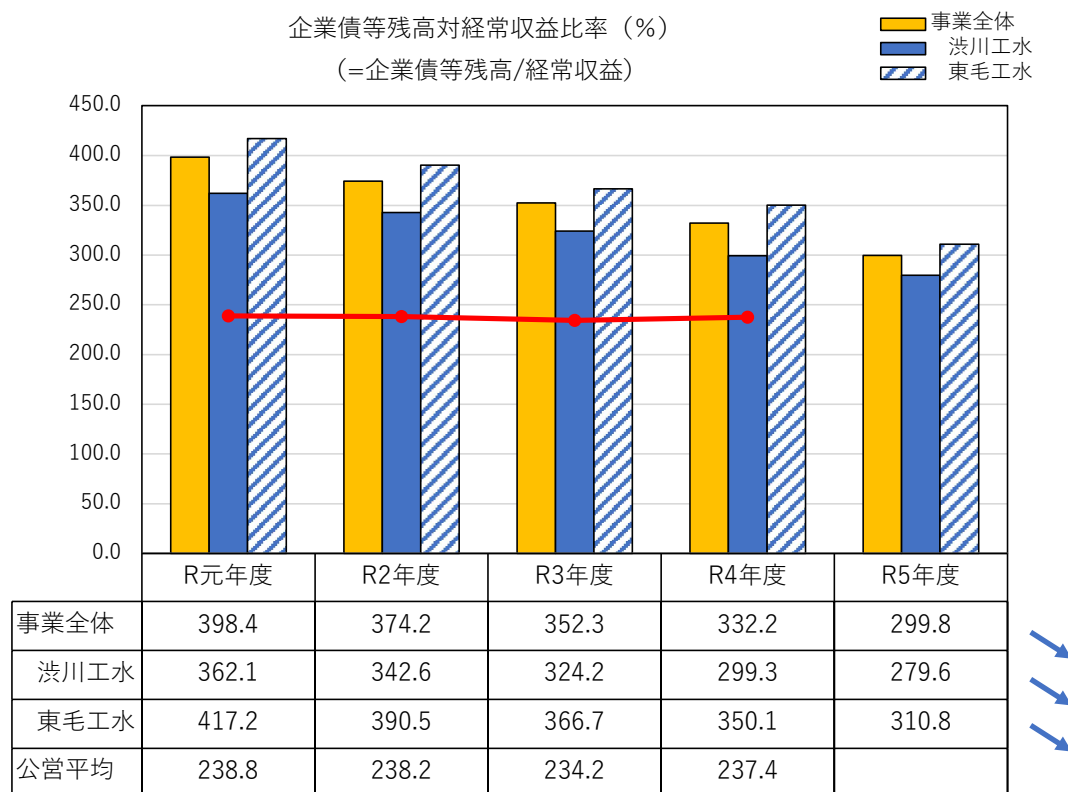
- ・ 経常収支比率（経常費用に対する経常収益の割合）は維持管理費の減少等により前年度から7.6ポイント増加した。
- ・ 渋川工水では、100%以上となったものの電力補助金（電力料金高騰対策としての補助金）収益の増によるもので、経営改善を図る必要がある。
- ・ 東毛工水では、100%以上ではあるが老朽化管路の更新等の財源を確保する必要がある、アセットマネジメントによる長期改修計画が必要である。



5 企業債等残高対経常収益比率

ポイント

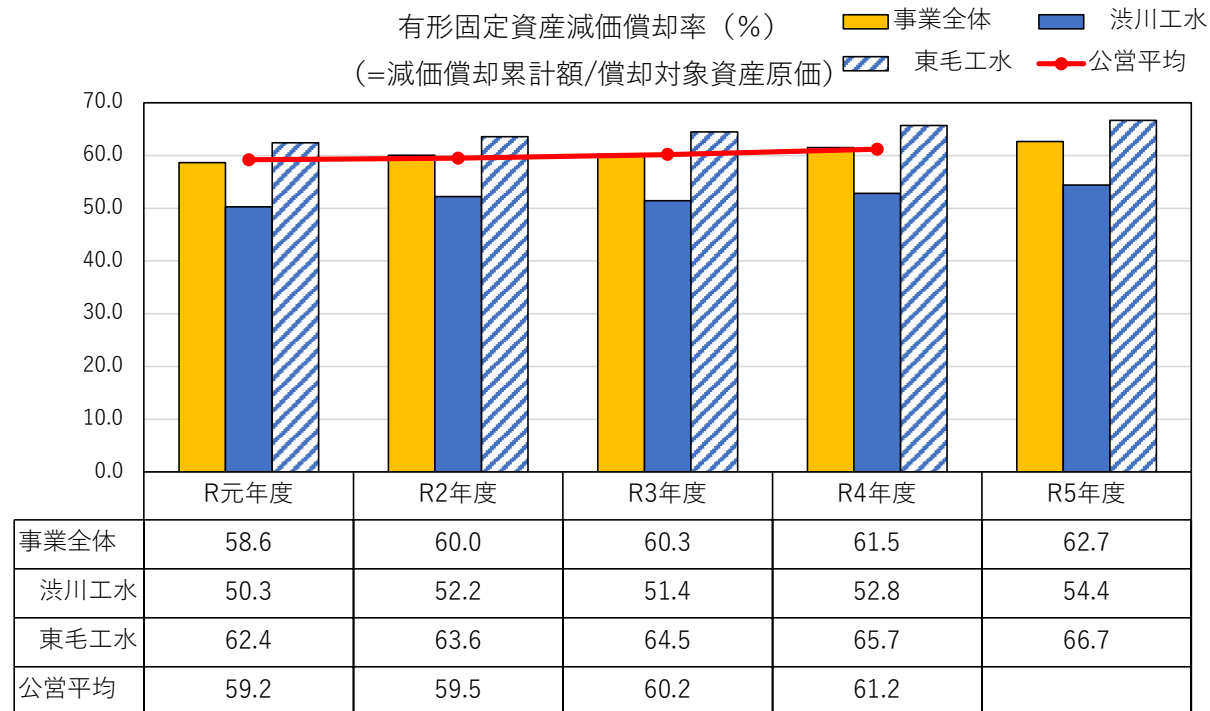
- ・ 企業債等残高対経常収益比率（経常収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す）は、償還が順調に進み、改善傾向にあるものの公営平均と比べ依然として高い水準にある。
- ・ 令和5年度末の企業債等残高は渋川工水で1,916百万円、東毛工水で3,916百万円と多額であり、今後も償還が続くことから、資金の確保に留意する必要がある。



5 有形固定資産減価償却率

ポイント

- ・有形固定資産減価償却率（有形固定資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す）は、両工水ともに上昇傾向にある。
- ・計画的な更新・改修を実施するとともに、施設・設備の長寿命化に取り組んでいく必要がある。



工業用水道事業

5 管路老朽化

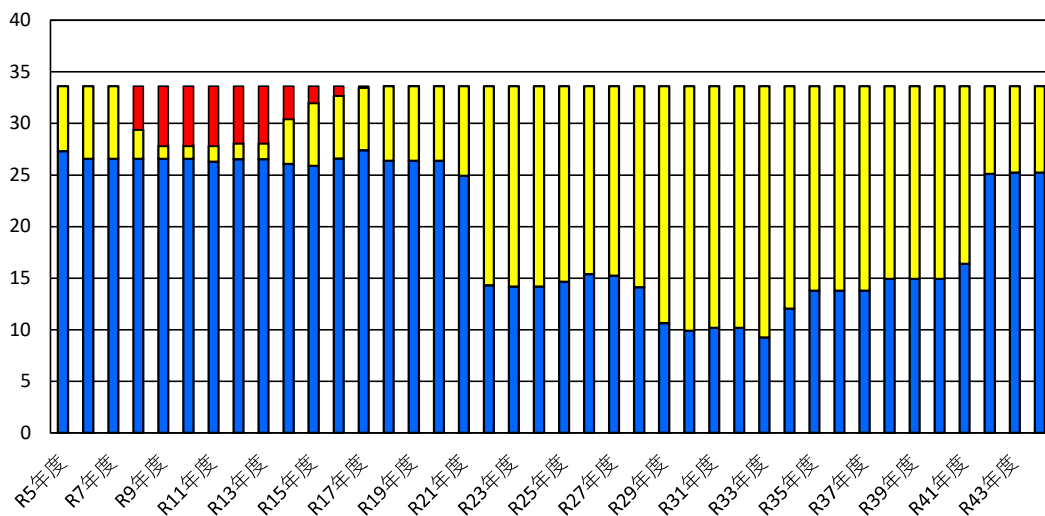
ポイント

- ・ 渋川工水では、令和 8 年度から老朽化資産（経過年数が法定耐用年数（40年）の1.5倍（60年）を超えた資産額）が増加する。
- ・ 東毛工水では、経年化資産（経過年数が法定耐用年数（40年）の1.0～1.5倍（40～60年）の資産額）が増加する。
- ・ アセットマネジメントにより老朽化資産の更新を行う予定である。

管路健全度（渋川工水）

管路延長（km）

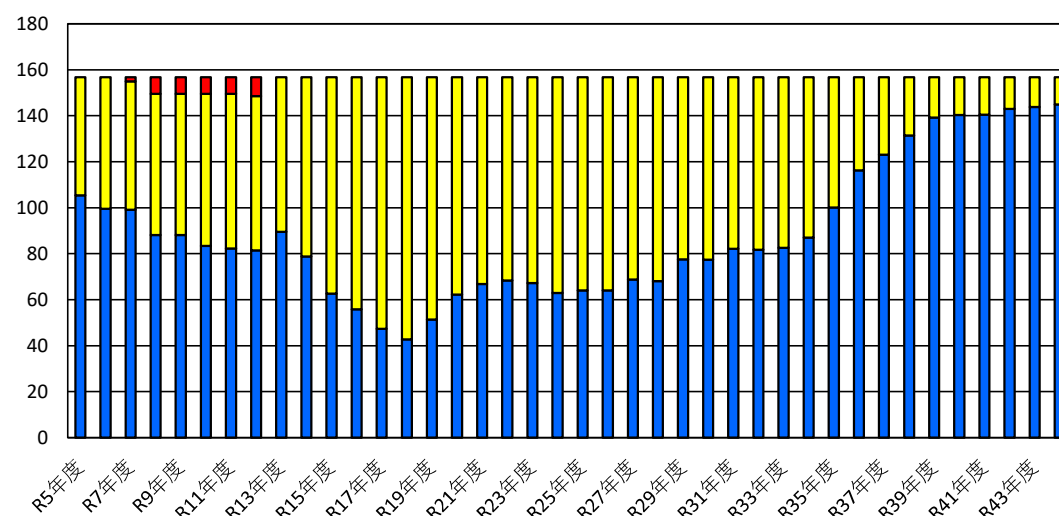
■健全資産 ■経年化資産 ■老朽化資産



管路健全度（東毛工水）

管路延長（km）

■健全資産 ■経年化資産 ■老朽化資産



5 施設利用率

ポイント

- ・ 渋川工水は、給水能力に対する給水実績の割合が70%台を維持している。
- ・ 東毛工水は、給水能力に対する給水実績の割合が30%を下回る状況であり、施設能力の半分以上を活用できていない状態にある。

